



「ようこそ、先輩！」矢鋪與左衛門さんに学ぶ！

今年も、本校の卒業生で陶芸家の矢鋪與左衛門さんが、3名のお弟子さんを伴って来校していただきました。6年生の卒業制作と講話のためです。

矢鋪先輩は、命の大切さや粘り強くやり続けることでしか成就しないことなどを、長年のご経験から具体的な例を挙げて、子供たちに分かりやすくお話ししていただきました。私が印象的だったのは、「判断基準」というお話です。世の中の多くの方は「損得」「や」「好き嫌い」で判断することが多いが、「命を授かった親を悲しませないため、喜ばせるためには、どうすべきか」が、判断基準であるべきだ、という趣旨のお話です。また、知識だけならインターネットで検索すればすぐに手に入るが、「社会性」は手に入らない。学校に行ってみると一緒に学ばないと、「社会性」は身に付かない、というお話も、卒業を間近に控えた子供たちの心に響いたと思います。「現代の名工」として海外でも評価されている先輩に直接ご指導いただいたことの価値を成長の過程で少しずつ噛みしめ、教えていただいたことの意味を、さらに深く感じ取ってほしいと願います。



体験してみて、與左衛門さんが手際よく作っている飯椀も、自分で作ろうとするととても難しく、お弟子さんの力を借りてやっとできた飯椀も、少しぎこちないものでした。一つの技を4万回も繰り返して技術を習得するという話を聞くだけで、果てしない努力が伝わりました。この技術や皆様の思いが、いつまでも受け継がれていってほしいと思いました。

自分がなぜここにいるのか、自分の大切さについて教えていただき、とても勉強になりました。作ったお椀は、大切に使用させていただきます。

私たちのご先祖様を30代たどると、1億人になることを初めて知りました。とてもビックリしたし、心に残りました。1億の中の一つが欠けていたら、私は生まれていないと考えると、今生きていること、命があることへのありがたみが分かりました。これからは自分の命も人の命も、自分のように大切にしていこうと思います。

私は辛いことを続けるのは苦手なので、時々「なぜ生まれてきたんだろう」と思うことがあるけど、今日は、お話を聞いて、命は今の自分がいなかったらつながっていかないということを教えていただいたので、私も前を向いていこうと思えました。ありがとうございました。

私は、今までお母さんや先生に怒られたりしたときにイラついたりしたけど、お母さんや先生は神様と聞いて、イラつかないで、しっかり言うことを聞こうと思いました。

矢鋪さんの人間性の素晴らしさと6年生の豊かな感性、学びの深さを共有したいという思いから、特集させていただきました。6年生以外のお子様のご家庭でも話題にいただければ幸いです。

